

一般質問



9月13日、17日、18日の3日間にわたって一般質問が行われました。一般質問とは市政全般について市当局の考えなどを聞くもので、26人の議員が質問を行いました。主な内容は次の通りです。会派名は略称です。(正式名称は欄外参照)

**負担の重い
国民健康保険料の引き下げを**
共産

問 国民健康保険料について、一般会計からの法定外繰入を大幅に増やし保険料の引き下げを図るとともに、均等割は国に廃止を求め、少なくとも子ども均等割は市独自で補填を行い負担軽減を図るべきだが所見を問う。

答 市税を財源とする法定外繰入を増額して保険料を引き下げることは、国保加入者以外の市民との負担の公平性に欠けると考える。国に対して、医療保険制度の一本化等の抜本的改革や、子ども均等割保険料を軽減する支援制度の創設など要望していく。

九州大学箱崎キャンパス跡地は未来に誇れるまちづくりを
自民新

問 九州大学箱崎キャンパス跡地の利用に当たり、これまでの歴史を踏まえ、周辺地域と一体的に発展しながら100年後の未来に誇れるまちとなるように、本市のまちづくりに取り組む市長の決意を問う。

答 今後、持続可能な社会の実現には、先端技術なども積極的に活用していくことが大切である。先進的なまちづくり「Fukoka Smart East」の実現に向けて、関係者と連携し、未来に誇れるまちづくりに取り組ん

成年後見制度を利用しやすい環境づくりを
自民

問 成年後見制度を利用しやすい環境を整えていくための成年後見センターの設置や、成年後見人の不足が予想される中、市民後見人の養成などが必要と考えるが所見を問う。

答 超高齢社会の進展に伴い、成年後見を必要とする人が増加すると見込まれる。現在、県弁護士会などで構成する実務者会議において、制度の利用促進の在り方について検討を重ねており、国の成年後見制度利用促進基本計画も踏まえ、しっかりと取り組みを進めていく。

高齢者を対象とした運動機会の拡充に向けた取り組みを
市民ク

問 身近な場所での個人ニーズに沿った運動機会の提供が介護予防につながり、介護や医療の費用の軽減につながっていると聞く。これからも高齢者を対象とした運動機会の拡充に向けて取り組んでほしいが所見を問う。

答 人生100年時代の到来を見据え、誰もが健康で自分らしく暮らすことができる持続可能なまちを目指す「福岡100」を推進している。今後とも、地域団体等と連携し、身近な地域における

健康づくりや介護予防に取り組みやすい環境づくりを進める。
重度障がい者のグループホームの整備を
令和会

問 重度対応型グループホームは、通常の国の報酬単価で運営可能なグループホームとは別の支援制度があることで運営ができる。次期保健福祉総合計画では、本市独自の支援策を盛り込む必要があると考えるが所見を問う。

答 令和3年度を初年度とする次期保健福祉総合計画の策定に着手したところであり、保健福祉審議会や障がい当事者の意見を聞きながら、障がいの重度化に対応したグループホームの設置促進の在り方について、計画に反映するように検討していく。

子どもや若い世代に向けた健康増進の取り組みを
市民ク

問 本市の健康増進施策は、高齢者中心の事業展開になっている。健康への無関心層も含めた市民の健康増進を推進していくため、子どもや若い世代と関わる局で連携した取り組みが必要と考えるが所見を問う。

答 保健福祉分野のみならず、住まいや地域づくり、働き方などのさまざまな分野と連携することにより、世代を問わず「自然に市民が健康になれるまちづくり」を進めており、引き続き全庁を挙げて一体的な施策の推進に取り組んでいく。

交通用福祉ICカードの利便性の向上を
自民

問 交通用福祉ICカードについて、地下鉄から離れた地域の高齢者にはバスを利用しやすいように二モカにチャージした方

がよいのではないか。はやかけん以外の交通系ICカードを選択できるようにするためには、各事業者において、新たに電子マネー機能を外したカードを開発する必要がある。その場合、技術面等さまざまな課題があり難しいと考える。

答 交通用福祉ICカードは特別な仕様で開発しており、他の交通系ICカードを選択できるようにするためには、各事業者において、新たに電子マネー機能を外したカードを開発する必要がある。その場合、技術面等さまざまな課題があり難しいと考える。

九六六本松の跡地処分とUR都市機構はもうけ過ぎだ
無所属

問 九六六本松の跡地では、URは九六六から坪単価約50万円約99億円で購入した土地について、約3分の1を約117億円でJRに売却した。残りの約3分の2を路線価で売却したと推計すると、合計約208億円の売却と推計するが、もうけ過ぎではないか。

答 UR都市機構が既存校舎の解体、土壌の汚染対策や道路、公園等の基盤整備などを行った後に、同機構の規定に基づき、適正な手続きを行い売却されたものと認識している。

夏季イベント開催時の熱中症対策の推進を
令和会

問 今年は本市主催イベントにおいて熱中症患者が発生したが、来以降は明確な開催検討ステップのもと、熱中症患者を1人も出さず、また、市民向けにも基準を公開し、行政機関として民間イベント主催者に範を示すべきだが所見を問う。

答 来年の夏季イベント等に備え、開催検討ステップを示したリーフレット等を作成し、本市主催イベントのみならず、民間

主催イベントへも周知を図るなど、市民の生命・健康を守るといいう強い使命感を持って取り組む。
**安心して暮らせるように
防火対策を**
公明

問 防火がなくなり、火災が少なくな安心して暮らせる福岡市をつくるためにも、消防や行政とともに事業所や地域住民の協力も大変重要である。今後どのような防火対策を行い、火災そのものの件数を減らしていくのか決意を。

答 防火は悪質な犯罪行為であり、いったん発生すると地域住民に大きな不安を与えるもので断じて許されない。今後とも防火されにくい環境づくりの啓発を推進するとともに、消防局をはじめとする関係機関が連携・協力して防火防止対策に取り組む。



区ごとの放火発生状況が分かる放火マップ

都市高速道路の利便性向上を
令和会

問 大きく変貌する本市の成長を支える都市高速道路の機能強化を図るためにも、短中期的な視点に立つて急ぎ抜本的な対策を行う必要がある。福岡北九州高速道路公社との関係性を踏まえ、どのように対応していくのか。

答 渋滞緩和や利便性向上などの課題は、今後、関係者間で認識の共有を図っていく。また、同公社に対して、必要な対策の実現可能性の調査等に着手するよう働きかけを行う。その結果を踏まえ、関係機関と事業化に向けた検討を図っていくこととなる。

オレンジ通りは交通安全対策を踏まえた整備を
緑・ネ

問 早良区のオレンジ通りにクランクが整備された経緯や、交通安全対策を踏まえた同通りの先進的な取り組みを否定する区の認識について所見を問う。

答 同通りは、昭和60、61年度からクランクを取り入れ整備した。改良事業では福祉のまちづくり条例の整備基準で定める歩道幅員を確保しつつ、速度の抑制を見込める車道幅員で計画するなど検討を進めている。今後は、地域との合意形成にこれまで以上に意思疎通を図りながら進めていく。

質の高い市民サービスのための人材育成の充実を
緑・ネ

問 人口増や高齢化、多様性も担は増していると推測する。この状況の中、職員がしっかりと職務を遂行していくためには研修内容を濃くする必要があると考えるが、研修の目標について尋ねる。

答 研修の目標については、職員研修規程の第3条において、「研修は、職員が市民全体の奉仕者として職務を遂行するうえで必要な知識、技能、態度等を修得させ、その資質及び能力の向上を図ることを目標とする。」としている。